

ご挨拶

立命館大学アート・リサーチセンター
センター長
細井 浩一 教授（立命館大学 映像学部）



1998年の設立以来、アート・リサーチセンター（ARC）は20年以上にわたり、日本を中心とした文化資源（芸術、芸能、技術、技能などの有形・無形文化遺産）のデジタル・アーカイブを構築してまいりました。さらに、伝統文化や芸術がいきづく京都に拠点を置く総合大学の研究所としての特色を活かし、文化資源の活用にはデジタルデータや地理情報などを応用し、人文学と情報科学を連携させた文理融合型の日本文化・芸術研究を展開しています。

2014年度から本センターは文部科学省認定の「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」として、デジタル・アーカイブの普及を促進してまいりましたが、2019年10月より、同省認定の「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」としての活動を開始しました。これまでの取り組みをさらに国際的に発展させ、研究領域や地理的境界を超えた日本文化・芸術共同研究のハブとして、さらにはデジタル・ヒューマニティーズ型研究の国際拠点を目指して、高度な研究活動、若手研究者の育成・支援、芸術文化の普及と教育に取り組んでいきます。

デジタル・ヒューマニティーズ型 日本文化・芸術研究の国際拠点 日本文化資源デジタル・アーカイブ 国際共同研究拠点（通称：ARC-iJAC）

立命館大学アート・リサーチセンターは、2019年10月23日に文部科学省の国際共同利用・共同研究拠点の認定を受け、「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点（通称ARC-iJAC：International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture）」として活動を開始しました。

高度情報化社会を迎えた現在、文化・芸術研究資源のデジタル化、データベース化、そしてデジタル資源の公開と活用は、これまでアナログが主体だった日本文化・芸術研究スタイルに革命をもたらしています。ARC-iJACはこれまでアート・リサーチセンターが取り組んできた日本文化・芸術研究のデジタル・アーカイブ構築とその活用をさらに加速させ、人文学研究の過程そのものがオープンデジタル化し、アーカイブが蓄積され循環していく「データエコシステム」確立を可能にする研究環境の開発を進めています。

ARC-iJACは、地理的な制約を受けることなく、オンライン上で研究活動を効率よく行えるデジタル・ヒューマニティーズ型日本文化・芸術研究の国際拠点として、アクセシブルで使いやすいデジタル研究環境を提供していきます。

ARC-iJACでは、 共同研究課題を募集しています！

デジタル・アーカイブによる日本文化資源の国際的な流通促進、及びサイバー研究空間構築のための環境整備を進めているARC-iJACでは、2つのカテゴリにおいて、デジタル・ヒューマニティーズ型の共同研究課題（プロジェクト）を募集しています。より多くの研究者や研究機関にARC-iJACのサービスをお使いいただくことで、デジタル型研究の環境がさらに充実し、研究活動の効率化や研究費の節約、そしてコミュニティの拡大が見込まれます。

カテゴリ1	国際共同研究課題	研究費支援あり	年1回公募
-------	----------	---------	-------

④ 国際テーマ設定型課題

ARCが設定する3つのテーマに関する国際共同研究

⑤ 国際個別テーマ型課題

応募者各自がテーマを設定し、ARCが保有するデジタル研究資源等を活用しながら行う国際共同研究

⑥ 個別テーマ型課題

応募者各自がテーマを設定し、ARCが保有するデジタル研究資源等を活用しながら行う共同研究

カテゴリ2	国際共同研究課題	研究設備・資源活用型／研究費支援なし	随時募集
-------	----------	--------------------	------

⑦ 研究設備・資源活用型課題

ARCが保有する施設や様々な設備、機器、クラウド領域を活用してデジタル・アーカイブを構築することを目的とした国際共同研究

⑧ データベース活用型課題

ARCが保有するデータベースを活用して行う国際共同研究

各課題の募集要項及び申請方法については、ARCのホームページをご確認ください。



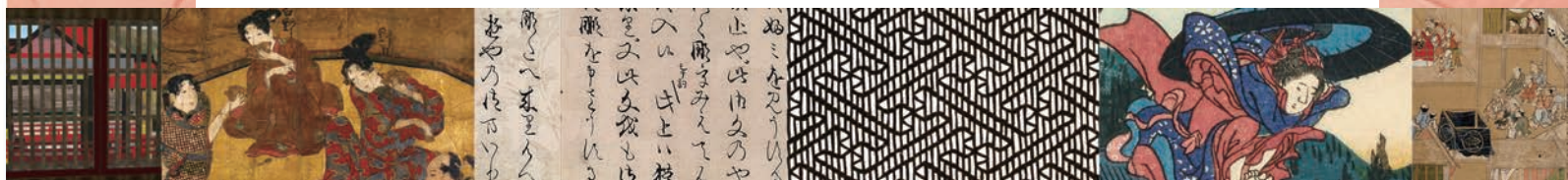
www.arc.ritsume.ac.jp

立命館大学 アート・リサーチセンター
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 Tel: 075-466-3411
受付時間＝平日9:30～17:00（土日祝、その他閉館日を除く）

立命館大学アート・リサーチセンター

日本文化資源 デジタル・アーカイブ 国際共同研究拠点

International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture



Art Research Center | Ritsumeikan University

ONLINE RESEARCH ACTIVITIES

.....

研究場所をオンライン研究空間へと誘導し、その空間をさらに高度に活用

FUNCTIONS LIST

.....

ARC - iJAC のネットワーク環境・機能

ARC'S DIGITAL RESEARCH ECOSYSTEM

.....

人文研究者の研究スタイル革命

WHY ARC-iJAC?

.....

ARC-iJAC の研究環境サービスを利用すると...

オンライン・リサーチ・スペース

サイバー学会

オンライン
ジャーナル

オンライン
ペーパー

Web 出版

研究室

研究会

データ・
アノテーション

オンライン・
フォーラム

レファレンス・
データベース

研究資源データベース

デジタル・アーカイブ

NPO が文化財
デジタル化を
サポートします

研究資源

サイバー学会

ARCクラウド (ownCloud)

- ① デジタルファイルアップロード
- ② Web公開
- ③ ファイル共有
- ④ ファイル共同編集
(Word, Excel, PowerPoint)
- ⑤ プレゼン機能

文化資源ポータルデータベース群 テキスト、画像、動画、音声、3D等に対応
古典籍ポータルDB、浮世絵ポータルDB、催事型・景観型DBなど

研究レファレンス・データベース群

文化人・芸能人 人物名DB、年譜・年表記事DB

ArtWiki

文化芸術用語辞典

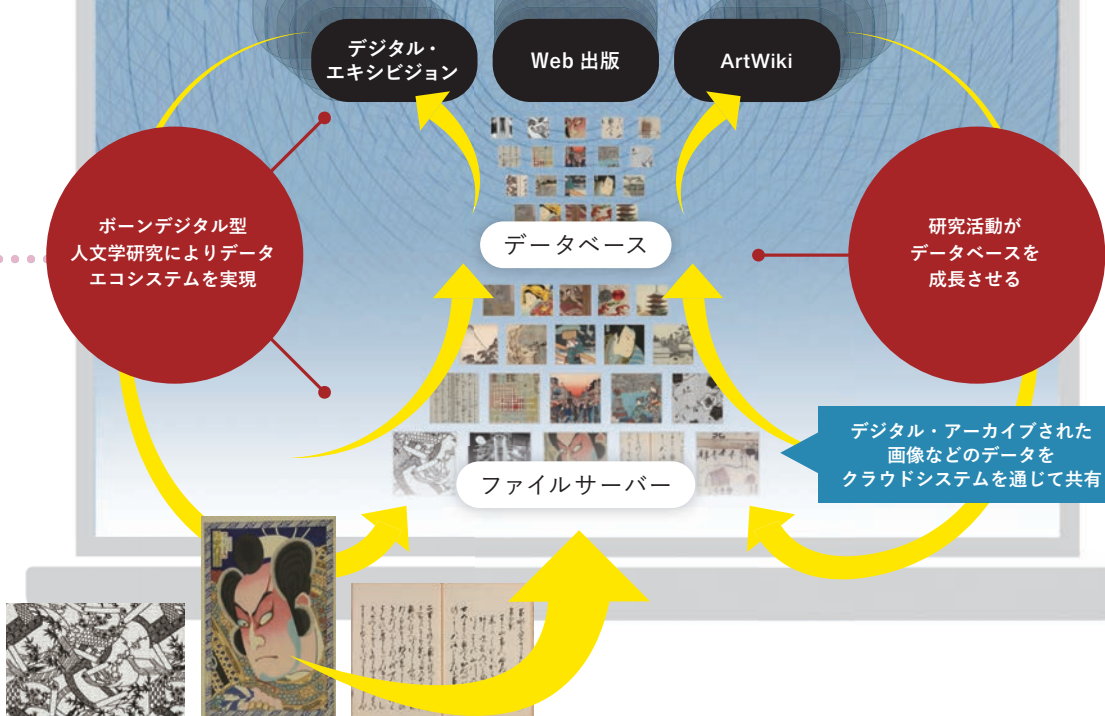
個別プロジェクト対応 専門Wiki

Virtualインスティテュート

オンライン展示・オンライン研究所

以上のような様々な機能全体を「ARCリサーチ・スペース」として呼んでいます。利用者がこうした複数のデータベースや機能の間をフレキシブルに行き来しながら、アナログ環境での研究では実現できなかった大規模で効率のよい研究を進めることができます。

オンライン・リサーチ・スペース



誰でも簡単にデジタル技術を使った デジタル・ヒューマニティーズ型研究が始められる！

デジタル・ヒューマニティーズ型研究なら、いつでも、世界中どこからでも、デジタル資源を使った研究が始められます。また、ARCでは所蔵品のデータベースだけでなく、Webに上がった世界中の文化資源を取りまとめて閲覧できるポータルデータベースという仕組みを使い、統合的に専門的な文化資源にアクセスできる環境を用意しています。

研究活動に“使える”データベースが作れる！

国内での論文発表や、汎用性のないデジタル化など、せっかくの研究成果を閉じた世界だけに留めておく時代はもう終わりです。ARC-iJACが整備を進めるデジタル型研究環境なら、研究者自身が自分の研究活動に“使える”データベースを作成でき、研究成果を世界中の研究者たちと共有できます。

テクニカルサポートが受けられる！

ARC-iJACにはテクニカルサポート体制があり、データベースやデジタル・アーカイブ技術に不慣れな方にも安心して研究環境サービスをご利用いただけます。また、ARCが所有する設備や機材も利用可能です。

海外日本美術品・工芸品のデジタル・アーカイブとコレクション研究

Digital Archiving and Research of Japanese Art Collections in Europe and the US

研究代表者：メトロポリタン美術館・日本部門
主任学芸員 John Carpenter

欧米各国の所蔵機関に散在する日本美術・工芸品をデジタル化し、デジタル・アーカイブを共同で利用できるデータベースを構築するために、ARCのデジタル・アーカイブ技術が活用されています。関連資料や古典籍もデジタル化の対象とすることで、海外に輸出された日本美術・工芸品や日本文化についての考察などが、デジタル研究環境を使って行われ始めています。このプロジェクトには、イギリスの大英博物館、ケンブリッジ大学図書館、アメリカのメトロポリタン美術館、シカゴ美術館、オランダのライデン民族学博物館をはじめ、多くの所蔵機関が参加しています。こうしたデジタル・アーカイブはARCの浮世絵ポータルデータベース及び古典籍ポータルデータベースにも格納され、世界中のデジタル資料を共同利用できる環境整備が進んでいます。



Archiving and Utilization of Japanese Performing Arts Materials on JPARC

(Japanese Performing Arts Research Consortium)

研究代表者：カリフォルニア大学サンタバーバラ校 東アジア言語・文化学研究学科
准教授 Katherine Saltzman-Li

JPARC (日本舞台芸術研究コンソーシアム) がメンバー研究者や一般の提供者から得たアナログ資料をデジタル化するとともに、メンバー同士の共同研究による成果をインターネット上で公開することを目的に、2014年に始まったプロジェクトです。ARCが技術面で協力をを行い、能楽や歌舞伎、文楽に関する高精細・高精度なデジタル・アーカイブの作成を進めています。デジタル資料に徹底的なメタデータを追加することで、一般の方でも理解しやすい基礎的な情報から、演劇実践者や研究者向けの専門的な内容まで幅広くカバーし、公開しています。また、今後一般公開予定の歌舞伎セクションにおいては、ARC歌舞伎データベースやデジタル浮世絵博物館が活用されています。



JPARC jparc.online
https://jparc.online/



カリフォルニア大学バークレー校

C.V. スター東アジア図書館所蔵日本関連特殊コレクションプロジェクト

研究代表者：カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館
日本担当司書 Toshie Marra

カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館が所有する日本関連館蔵資料のデジタル化プロジェクトにおいて、ARCは2006年から資料のデジタル化およびデジタル・アーカイブ構築に共同で取り組んでいます。これにより、古典籍や銅版画のデータベースの検索が可能になり、教育・研究活動に活かされています。さらに、ARCのデータベース機能を使って古典籍の翻刻や解題をアーカイブすることにより蓄積されたデータを活用し、ホームページ上でデジタル展示を実施することも可能になりました。



カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館所蔵日本関連特殊コレクション
https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/UCB/



Late Hokusai: Thought, Technique, Society プロジェクト

Thought, Technique, Society プロジェクト

研究代表者：大英博物館
アジア部日本セクション長 Timothy Clark

イギリスの著名な北斎研究者であるロジャー・キーズ氏が所有していたカタログ・レゾネが大英博物館に寄贈されたことを受け、それらを公開・共有することを目的に、作品や研究資料のデジタル化及びデジタル・アーカイブ構築プロジェクトが始まりました。ARCはデジタル化及びデジタル・アーカイブ構築を技術面で支援し、ARC古典籍ポータルデータベースからカタログ・レゾネ及び挿絵入り本のデータベースが利用できるようになりました。また、同プロジェクトでは日本とイギリスの研究者らが北斎の本の序文を読み解き、作品や資料の理解をさらに深めて現代語訳や英訳を作成するオンライン定例勉強会も開催され、デジタル資料を使った国際共同研究が進められようとしています。



Late Hokusai: Thought, Technique, Society
(ARC デジタル浮世絵博物館テーマ別 DB 内)
www.dh-jac.net/db1/booksrske/search.php

